

令和3年度 新潟広域都市圏ビジョン懇談会 議事録

- 日 時：令和4年2月8日（火）午前10時から午前11時30分まで
- 会 場：新潟市役所本館6階 第2委員会室
- 出席委員：金子春子委員、斎藤敏之委員、関原貢委員、三原茂委員、山賀昌子委員、横尾良輝委員
(上村都委員、大島毅委員、高井和江委員、中山正子委員は欠席)
- 事務局：小野統括政策監、大坂政策監、小林主幹、川上主査
- 報 道：0社
- 傍 聴 者：0名

【概要】

○ 議題（1）

第1期 新潟広域都市圏ビジョンの総括について

大坂政策監 【資料1】説明

（意見・質問）

横尾委員

- 第1期の総括として令和2年までを対象としており、なおかつ素案となっているが、この資料の取扱いについてお聞きしたい。通常であれば総括は足りなかった部分を次に反映させるためのものである。素案となっているものが今後どのように取り扱われるのかがまず1点。

次に12市町村の連携がある中で、ここに至るまでにその市町村と協議をしたうえでこのような総括をされているのか。資料の性格と進め方をお聞かせいただきたい。

また、2ページの成果指標（基本目標）の中で、コロナの影響で△となっているものがあるが、一方で各連携事業指標でもコロナにより16事業が目標に達しなかったとの評価になっている。評価の中身としては、大体が人数などがコロナの影響により目標に届かなかったとして△としているが、コロナ禍で出来なかったことと出来たことの整理や、第1期で出来たことを2期に向けて反映させるなど、○×△だけではない事業自体の評価があるのではないかと。3ページ以降は主な取り組みの報告となっているが、もしここに現れていないような要素があれば補足説明してほしい。

大坂政策監

- まずこの総括の取り扱いについては、本来であれば結果を踏まえて次を策定す

るという流れになるべきだとは思いますが、どうしても年度が終わらないと事業の結果が出ないということや、指標によっては国・県の数字を使ったものなど公表に時間がかかるということもある。令和 2 年度に今の第 2 期ビジョンを策定する際には、期間半ばでの状況ではあるが中間報告という形で令和 2 年度の状況について皆様に報告させていただき、そこでのご意見を第 2 期ビジョンに反映している。

総括についての他の自治体との関係については、各自治体でとりまとめを担当している企画部門に対して、書面協議であるが素案を確認してもらい、そこでの意見を反映させた状態で本日皆様にお配りしている。

最後の質問については、コロナの影響もあった中で、このような計画ものの評価をどうすべきかを内部でも検討したが、どうしてもこのビジョンの立て付け自体が、最終年度の実績が目標値に届いているかで判断するということになっている。途中の年度までは非常に好調だったがコロナの影響で最後の年度だけ大きく実績が下がったという事業について、途中までの頑張りを反映させるべきか検討したが、そこを踏まえて評価をすると事業ごとに評価の視点が異なってくるため、ここは最終年度の状況で一貫して判断することとした。ただやはりコロナの影響は無視できないので、明らかにそれによってイベントができなかったといったものについては、コロナの影響があったと注釈を入れることでお示ししようということでこのような記載となった。

この総括は今後、本日皆様からいただいたご意見を反映させた形でホームページにて公表し、市議会議員の皆様にも配布する予定である。当然、連携市町村の担当部局にも配布して共有する。

横尾委員

- コロナをどう評価するかは、私たちの業態でもそうだが難しい問題だと思っている。本来コロナがなければ達成できたものもある中での評価は難しいと思って質問させてもらった。

山賀委員

- 令和 2 年度コロナ禍で思うように事業を進められなかったということもあったと思うが、その中でも取り組んでいた内容についてはよく分かった。どうしてもこのビジョンの評価が、目標値を設定して判断することにならざるを得ないのは理解するが、やはりコロナ禍によって新しい視点や新しいやり方で出来るようになった事業も中にはあるのではないかと。それによってもっと効果的なやり方なども考えられるようになり、新しいものが生まれてきているのではないかと思う。

また、コロナとは関係ないが、農業活性化研究センターの研修は、県でも実施することになったということで市としては目標回数に達していないが、県と連携で

き、効率化が果たされたとも考えられるので、これは別の評価につながるのではないか。どうしても数字だけで判断せざるを得ないことも理解するが、別の新しい効果なども今後反映させていただければと思う。

大坂政策監

- 委員がおっしゃるように、このビジョンということではないが、このコロナ禍で会議がオンラインになり、必ずしも対面でなくても出来るようになったというのが大きな変化だと思う。庁内の研修のようなものでも、画像・映像で講師が講演するものを事前に収録して、それをWEB上や組織の共通のハードディスクで読み出してオンデマンドで研修を受けるといったような取り組みもある。委員のおっしゃるように、コロナ禍だからこその取り組みや効率化という視点があり、今後も事業の中に顕在化してくると思っている。

農業活性化研究センターの件については大変いいアドバイスを頂いた。そのような視点も踏まえて評価について再検討してみたいと思う。

山賀委員

- 今年の会議でもちょうどコロナの感染が広がっていろいろなオンラインの取り組みが増えてきていたが、行政側はまだそこに追い付いていないので早急に整備という話があった。今後も環境整備などが必要になってくる取り組みがあるのではないかと思う。具体的な例として、観光文化施設の割引券を広報誌に掲載するのもよいが、携帯でダウンロードして使用すれば人同士の接触も減る。新潟市もLINEなどのSNSをやっているのだから、施設側の対応も必要になると思うが、そのような基盤整備も必要になってくると思う。

大坂政策監

- 観光文化施設の割引サービスは、実際にそのような検討も進めている、市報にいがたにはWEB版もあるのでそのような取り組みも可能なのではないかとこのことで関係市町村とは協議はしている。しかし一方で、使用者がその自治体にお住まいかという確認をどのようにしたらよいかということと、施設によってはそこまで対応できないということもあって、継続して協議をしている。

斎藤委員

- 第1期の期間ではコロナの影響もある中で、実績一覧は年次で分けられているが、コロナで大きく変わったということであれば、コロナの影響を受けた部分を分けてみると見やすくなるのではないかと。年次で分けるのではなく、「ここからコロナの影響が出た」というような記載にすると表として見やすくなるのでは

ないか。

大坂政策監

- 今のご意見も踏まえて、この表の掲載の仕方を今一度検討したい。

三原委員

- 13 ページの首都圏等見本市共同出展事業は唯一の×が付いているが、全ての年度で全ての市町村から1件も手が上がらなかった原因についてどのように分析しているのか。

大坂政策監

- 当初は各市町村も参加意識が高かったそうだが、参加を具体的に検討する中で、首都圏までの旅費の確保といった予算上の問題や体制整備などについて課題があり、結局、声はかけ続けたが集まらなかったという状況だったと聞いている。

○ 議題（2）

第2期 新潟広域都市圏ビジョンの成果指標（基本目標）について

大坂政策監 【資料2】説明

（意見・質問）

金子委員

- 令和6年度の数値目標は記載があるが、令和2年度の実績は把握しているか。

大坂政策監

- 先ほど説明した資料1の3ページの表中に記載したとおり、令和2年度の圏域全体の観光入込客数は1932万人であった。

金子委員

- 私たちの会員内での話だが、令和2年度については令和元年度比で40%くらいだったという数字がある。令和3年度は令和元年度比60%程度であり、もちろん地域によって多少差はあるが、元々インバウンドの数が多かったところは当然全体よりもかなり落ち込んでいるという状況である。実際に、次の統計で実績が発表された時点で数値目標を設定するということであるので、そこで実数を確認させていただく。

大坂政策監

- 資料 2 に記載しているとおおり、今回設定を保留している 2 つの指標については令和 4 年度に再検討するというので、その時点での実績を踏まえてお諮りしたいと考えている。

○ 議題（3）

令和 3 年度連携事業の進捗状況について

大坂政策監 【資料 3】説明

（意見・質問）

金子委員

- No.7 の広域観光周遊ルート形成について、ホームページを運用すると記載しているが、いわゆる訪れた方が簡単に手に入れられるようなアプリの導入などは検討しているのか。今は市町村ごとのルートについてホームページ上で作りこんでいるのだと思うが、お客様はアプリを使うことに慣れているので、例えば 2 時間あったらどこへ行くかと考えた時に携帯ですぐ探せるような、圏域の広域ルートの中で何が出来るのかというようなことが探せるとよい。観光コンベンション協会などが既にやっているかもしれないが、せっかく広域でやるのであればお客様が来たときすぐ出来るような仕掛けがあれば、さらに楽しむことが出来るのではないか。

大坂政策監

- 圏域の観光スポットの関連については、平成 29 年度にパンフレットを作成し、平成 30 年度には WEB サイトを立ち上げている。WEB サイトでは自治体の圏域を超えた、たとえば西蒲区と弥彦と燕などのエリア的に近いところを結ぶ観光ルートもいくつか提案している。

新潟市単独ということであれば平成 30 年頃に新潟ストーリープロジェクトを立ち上げている。これは JR の駅を起点として周辺の観光スポットを巡るルートを提案するものであり、WEB や冊子で展開している。他にも新潟市のホームページでスキマ時間の楽しみ方というサイトがあり、ビジネス客が仕事が終わって出発まで時間が余った時などに、時間に応じて新潟駅の近隣や古町・万代などの中心部でお楽しみいただけるような紹介をしている。

山賀委員

- No.18 の子育て支援パスポート利用促進について、直近ではアンケート未実施とのことだが、前回のアンケートでは市民の満足度が高かったとある。パスポート

トの利用促進がお店の利用促進に繋がったなどの協賛企業側の効果は把握しているか。

大坂政策監

- そこまでは確認できていない。

○ 議題（４）

令和４年度連携事業の追加・拡充に向けた検討状況について

大坂政策監 【資料４－１、４－２】説明

（意見・質問）

横尾委員

- 先ほど山賀委員のお話でも携帯で利用出来るようにする方法もあるとの助言があったが、27ページに記載されている文化・観光施設の利用促進について、割引券を市公共施設に設置し、そこに取りに来てもらうように変更したとある。他の市町村は広報誌に掲載されているのに、新潟市は施設に来ないと配布しないというのは、サービスが後退したということなのか。それとも何か問題があって掲載を止めたということなのか。

大坂政策監

- 私たちもこの資料を更新していく中でそういった状況を初めて把握した。来年度の取り扱いが変更可能かは分からないが、私たちの方でも関係部局と調整していきたいと考えている。

金子委員

- SDGsに関連して、最近は特に環境問題が取りざたされているが、4月からプラスチック製品の使用を有料化するような動きもある。このあたりの連携について議論をするということは考えているのか。

大坂政策監

- 担当部局から聞いている中では、温暖化対策をメインにして、圏域内で石油燃料に代わる代替エネルギーの利用が進むように、研修会・勉強会を通じて取り組んでいくと聞いている。金子委員がおっしゃる内容を含んでいるかは現時点では承知していない。

金子委員

- 先ほどもお話ししたが平成 29 年度に圏域観光のパンフレットを作成して活用しているということについて、パンフレットを否定するものではないが、やはりこれからは携帯を利用するようなものも取り入れていかないとニーズに応えられないのではないかと懸念している。ぜひそのあたりも考えてもらえればと思う。

大坂政策監

- 冊子や紙媒体はどうしても更新に手間も時間もかかるという一方で、デジタルツールはすぐ更新しやすいという利点もたくさんある。ご指摘も踏まえて担当部局の方でより一層取組みが進むように、ご意見を伝えてしっかりサポートしていければと思っている。

○ その他

新潟広域都市圏ビジョン懇談会 今後のスケジュールについて
事務局【参考資料 1】 説明

○ 閉会